



10月号より連載されている**佐藤智充副院長著述の連載(全6回)の第2回目**です。
赤十字の成り立ちから現在まで、これを読めばあなたも赤十字通！！

戦争と災害と赤十字

第2回 第1次世界大戦 その1

第1次世界大戦は1914年にオーストリアハンガリー帝国サラエボに於いて同地を訪問中であつたオーストリア＝ハンガリー帝国皇太子のフランツ・フェルディナンド及びその妻（ゾフィ）がセルビア民族主義者であるガブリロ・プリンツィフに暗殺されたことがきっかけで起こつた。皇太子の叔父であるフランツ・ヨーゼフ 1世皇帝は直ちに報復のためにセルビアに宣戦布告をした。するとセルビアの領土を狙っていたロシアがセルビアを支援。その後ドミノ倒しのように軍事同盟を結んでいた各国が参戦する形となり、瞬く間に30か国以上の国が戦争に参戦することとなった。さらには1年も経たないうちに戦火は中東やアジアまで広がることとなった。第1次世界大戦時、激戦地であつた北フランス、ソンムの戦いにおいて初めてムービーカメラが使われるようになり、従軍カメラマンであつたジェフリー・マーリズが撮影した世界で初めての戦争の生々しい映像が現在もロンドン郊外の王立戦争博物館に保管されている（2005年ユネスコ記憶遺産）。イギリスでは現在でもスターウォーズの観客動員数を上回っている。ソンムの戦いにはオットー・フランク（ユダヤ人）もドイツ軍兵士として参戦しており、その活躍ぶりから部隊長から推薦されて将校となった。オットー・フランクはユダヤ人としてアウシュビッツで殺害されたアンネの日記で有名なアンネ・フランクの父親である。

第1次世界大戦時の1914年（大正3年）にはイギリス・フランス・ロシアから日本政府に対して救護派遣の要請を受け、全国から語学や医療技術に長けたスタッフを集め、イギリスに27名・フランス29名・ロシアに20名の救護員を派遣し、これが日本赤十字社の創設以来で初めての海外戦時救護派遣となった。特にフランスに於いては凱旋門近くのホテル・アストリアの一室を改装し、日本赤十字社病院を開院。延べ54832人の救護を行った。

イギリス・フランス連合軍とドイツ軍との激突の戦場となったベルギーでは現在でも年間3000発の不発弾が見つかり、今後も全ての不発弾を処理するまで300年かかるといわれる。イギリス・フランス連合軍とドイツとの戦場となった西部戦線の塹壕は全長700kmに及ぶ。オスマン帝国とロシア帝国との戦争では黒海とカスピ海に囲まれた3000m級の山が連なる真冬のコーカサス山脈に12万人を超える兵を派兵し、1万人を超える兵士が実際の戦闘に参加することなく凍死するという無謀な戦争をしている。

オスマン帝国は現在のトルコ・シリア・レバノン・イラク・ヨルダン・イスラエルやサウジアラビアの一部に至るまでの広大な国土を有していたものの、度重なる戦争に国家は疲弊していた。ドイツとオスマン帝国の連合軍を内部から崩壊させるためにイギリスの情報将校であるトーマス・エドワード・ロレンスがイスタンブールに派遣され、アラブ民族を独立させるという約束をした。オスマン帝国はトルコ人・アラブ人・ユダヤ人・クルド人などによる多民族国家であ

り、オスマン帝国に迫害されていたアラブ民族を独立させるという仕事を仕掛けた。(フサイン・マクマホン協定)

アラブ人の代表であったファイサルにオスマン帝国を倒した暁にはアラブ人による独立国家を認める旨の約束をし、アラブ人による武装蜂起を起こさせ、オスマン帝国を倒した。しかしその後イギリスは約束を反故にし、直後からアラブの国々を空爆。逆にユダヤ人による国家を建国しイスラエルが誕生した。これらの事が現在に至るまで中東紛争として続いている。トーマス・エドワード・ロレンスは「アラビアのロレンスとともに：1919年公開」として戯曲や映画「アラビアのロレンス：1962年公開」などでも描かれ、イギリスの英雄として存在すると共に、中東諸国からは裏切りの英雄として認識されている。

オスマン帝国を接収したフランス・イギリス・ロシアの3国はその領土をフランス・イギリス両国で分け合う密約をしており石油の権益を分割した(サイクス・ピコ協定)。一方でユダヤ人には現在のエルサレム(パレスチナ)にユダヤ人の国家を樹立することを宣言しており(バルフォア宣言)、イギリスは各々が矛盾する約束(3枚舌外交)をしていたことになる。これらの事が現在にまで憎悪の連鎖の続く中東問題になっているのである。

ドイツは亡命中のウラジミール・ウリヤノフ(後の革命家レーニン)を支援することでロシア革命を起こさせ、ロシアを内部から崩壊させた。これによって史上初めての共産主義国家ソビエトが誕生した。ロシアとの戦争が終結したドイツは西部戦線に兵を集中することが出来たものの、このタイミングで中立を守っていたアメリカが参戦することとなり、イギリス・フランス連合軍の勝利によって第1次世界大戦が終結することとなる。アメリカのジョンソン大統領は多額の賠償金を求めない方針であったが、イギリスやフランスに多額の資金を援助していたウォール街のJPモルガン(ジョン・ピアース・モルガン)の強い反対を受け、ドイツには国家予算の20年分に相当する賠償金を課せられることとなり、ドイツ国内はスーパーインフレが発生。このことに強烈な不満を持つ青年が講和条約(パリ講和会議)に反対する政治団体を発足した。その代表がアドルフ・ヒトラーであった。

第1次世界大戦の終結は世界各国に戦争の火種をばらまき、世界中で内戦や紛争が続いた。第1次世界大戦の終結は第2次世界大戦までのほんの20年間あまりの休戦に過ぎないものであった。

そしてその20年の間に兵器は急速に近代化し、より巨大な殺傷能力を持った兵器が誕生するのである。

文責 佐藤智充

～ 筆者プロフィール ～



小野田赤十字病院 副院長 佐藤 智充(さとう ともみつ)

1970年、山口県生まれ

2004年、山口大学大学院先端分子応用医科学講座

診療科：外科

専門医資格等：日本外科学会外科専門医、マンモグラフィ読影認定医、
がん治療認定機構がん治療認定医、感染制御医(ICD)
災害医療コーディネーター